

経済問題のより高度な学習へ



経済学研究科委員長

たなか 田中
たくお 拓男

入学の時期や、2年から3年、さらに4年へと進級の時期になると、みなさんは自分の将来の姿について真剣に考えたいと思います。近い将来どのような場所で、どのような活動をすれば、自分の潜在能力とやる気を一番よく生かす道になるのか、本当に大切な問題です。幸せな人生を送るための設計には、将来へのイメージングとその準備が不可欠です。

皆さんが将来活躍される社会について、どのように描いていますか。地球社会は、急激にグローバル化が進み、海外の人々との相互交流が活発になっていきます。特に、経済の面で国際的な相互依存関係がますます深化して貿易や資本移動が活発になり、今や日本企業は厳しい国際競争に直面しています。みなさんは将来、力をつけてこの激しい国際競争を勝ち抜かなければなりません。また、地球規模の環境保全の問題は、アジア・アフリカ諸国の貧困問題と並んで、21世紀の人類の課題になっていきます。

他方、国内に目を転じると、少子化・高齢化が一段と進むとともに、政府の財政負担問題がますます厳しくなり、国民生活に密着した福祉医療問題や健康介護問題など早急に問題解決が迫られています。地域の自治体や住民レベルでも、これらの諸問題が重要になっていきますが、新しい情報ネットワークで新しい住民サービスの可能性が出ています。

現在、私たちの社会活動は、こうした様々な経済問題の動きと密接に關

連しており、経済的な視点からのアプローチが不可欠になっています。その際、日々の新聞やテレビを通じてジャーナリストックに経済問題を学び考え語るだけでは、複雑な経済問題の総合的な解決能力を修得することはできません。現代の経済問題を根本的に考え解決するには、一定の学問体系にしたがって論理的に分析し、問題解決の諸政策を模索するという、基本的な手法を身に付けなければなりません。学部段階での学習は、その基礎の修得になりますが、やはり大学院で一定期間集中的に経済学的な分析のトレーニングを受け、専門的なスキルアップをはかることがきわめて重要です。実際に経済問題に取り組むには、完全に自分のものになった高度な専門的スキルが求められます。将来、社会のいろいろなところでリーダーとして活躍しようと、大きな志を抱いている皆さんは、大学院の学習でその豊かな才能をさらに一層鍛え磨いてください。

経済学研究科では、3つの専攻に分かれて高度な研究を行っています。経済学専攻では、経済学の理論・計量や政策、また歴史や思想などを研究しています。公共経済専攻では、公共経済の理論的な分析を行いながら、前述の公的な諸問題、特に環境問題、都市経営の問題、福祉介護の問題、電子情報ネットワークの問題について事例研究などを通じて実践的な研究を進めています。国際経済専攻では、アジアを中心にした社会開発問題、ODAやNGOなど国際的な協力問題、アジア市場における国際ビジネス問題、さらに、国際金融為替市場の問題や新しい金融技術・企業ファイナンスの諸問題などを、JICA、シンクタンクなど外部の実務専門家も多数参加して実践的な教育をおこなっています。

学内選抜の入試方法が大幅に変更され、4月、9月、2月の3回、どの学部からも成績評価に関係なく受験できるようになりました。どのような経済問題を勉強したいのか、みなさんの深い問題意識と強い学習意欲が試されます。学内の説明会も度々行っています。志の高い皆さんとは是非一緒に勉強したいもの、期待してお待ちしています。